

小池 宏明 牧師

アブラハムが100歳、妻のサラが90歳の時に、ついに約束の子イサクが誕生した。アブラハムは、本当に嬉しかったことだろう。安心しただろう。「主の約束が着実に実現していく様子を見ながら、人生の終わりを迎えることができる。」アブラハムは、そう思ったのではないだろうか！そうしたら、この試練である。

*アブラハムの主への全き信頼

アブラハムは、この時、どれほど悩み苦しんだことだろうか。聖書にはそのことは記されていないが、アブラハムは、深く苦しみ、悩み、恐らく眠れない夜を過ごしたのではないだろうか。最愛の子を捧げると言う苦しみと共に、このイサクが死んでしまったならば、「あなたの子孫は夜空の星のようになる」と言われた主の約束はどうなってしまおうのだろうかという二重の苦しみである。アブラハムの信仰が揺さぶられる、人生最大の試練であった。

「翌朝早く」（3節）アブラハムは、我が子を焼き尽くすための薪を割って、息子と二人の若者を連れて出発する。「翌朝早く」これは、堅い決心の現われである。アブラハムは、恐らく一旦決めたら躊躇することなく、主のご命令にお従いしたのだろう。アブラハムは、実に、淡々と、粛々と、主のご命令に従った。とても悩んだかもしれないけれど、その葛藤を乗り越えた時に、迷いや疑いの気持ちは消えて、晴れ晴れとしていただろう。

新約聖書のヘブル人への手紙11章17-19節には、アブラハムがどんな信仰を持っていたのか記されている。アブラハムの信仰は、死者の復活にまで高められた。新約時代のキリスト者たちが主イエス様の復活を堅く信じているように。

*試練のときに

私たちは、理解できないような、あるいは感情的にも辛い試練を受けた時、どうしたらよいだろうか？ 試練を受けるとき、主は、決して、私たちを不幸にしたいと、計画を立てているわけではない。主は憐れみ深い、恵み豊かな、愛に満ちたお方なのだ。（新約聖書では、試練は「誘惑」と訳しても良い言葉が使われる。）

試練の時は、主に立ち返る時なのだ。試練に遭った時に、大いに神様に祈り求めて、どうしてですか？と聞いてもよいだろう。しかし、神様に対して不平不満をぶつけて失望して、もう神様に何の期待も希望も持たない、と決意しないでほしい。試練のときにこそ、自らの心の向きが、もしかしたらズレているのではないか、もしかしたら、神様よりも何が大切なものがあるのではないか、と自分を顧みて方向転換する（悔い改める）時なのだ。もう一度、主なる神様を見上げ、主なる神様から目を離さない、と決断をする時なのだ。アブラハムは、最愛の子でさえ、主が命じるなら、捧げると決心した。その時、試練と共に脱出の道が備えられた。試練の時こそ、神様を第一とする信仰が求められる。